

## グリーンアノール対策WGの結果報告

### 1. グリーンアノール対策ワーキンググループの設置経緯

平成 25 年 3 月に兄島で発見されたグリーンアノールに対応するため、緊急的に設置された「兄島グリーンアノール緊急対策WG」を解散し、「小笠原諸島兄島におけるグリーンアノール防除に関する現地連絡会議」の求めに応じ機動的且つ柔軟に対応することを旨として、少数の専門家からなる「グリーンアノール対策ワーキンググループ」が設置された。

### 2. ワーキンググループの概要

#### (1) 委員メンバー

グリーンアノール対策WG (仮称)	
苅部 治紀	神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員
川上 和人	森林総合研究所 鳥獣生態研究室 主任研究員
清水 善和	駒澤大学 総合教育研究部 教授
千葉 聡	東北大学 東北アジア研究センター 教授 (座長)
堀越 和夫	(NPO)小笠原自然文化研究所 理事長
安井 隆弥	(NPO)小笠原野生生物研究会 理事長
【アドバイザー】	
大林 隆司	東京都小笠原支庁産業課 小笠原亜熱帯農業センター主任
戸田 光彦	(一財)自然環境研究センター

#### (2) 本 WG における主な検討テーマ

- ・ 兄島におけるグリーンアノール対策に関する評価
- ・ 兄島におけるグリーンアノール対策の方針に関すること
- ・ 外来種の侵入に対する危機管理の体制強化

#### (3) 開催日程

現地連絡会議の求めに応じて、以下を主な議題として、今年度中に 4 回開催。

##### 第 1 回 (H25 年 9 月 9 日)

- ・ アノール生息確認状況および対策の進捗状況について
- ・ グリーンアノール防除ロードマップ (案) について

##### 第 2 回 (H25 年 11 月 1 日, 11 月 11 日)

- ・ 最新のアノール生息確認状況および対策の進捗状況
- ・ 防除の中間評価と今後の対策の方向性 (案) について
- ・ グリーンアノールに対するクマネズミの捕食者効果について

##### 第 3 回 (H26 年 1 月 23 日)

- ・ 平成 25 年度の取組の評価
- ・ 次年度以降の対策の方向性

##### 第 4 回 (3 月 6 日)

- ・ 平成 26 年度防除計画 (事務局案)
- ・ 各関係機関の事業予定
- ・ 聳島及び属島への侵入時の緊急対応について

### 3. 本 WG での検討結果（報告）

#### 兄島アノール防除の進捗状況のまとめと評価

以下の通り、今年度のアノール防除の取組を評価した。

評価項目	概要
捕獲作業による個体群変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在までの生息確認範囲においては、密度を相当に低減できたと評価された。</li> <li>・ 防除対象として重要な成体雌の捕獲が少ない。その理由が不明であり、捕獲が効果的に密度低減に寄与しているかが不明である。</li> </ul>
分布域の推定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度の捕獲及びセンサス作業から、分布域の推定範囲を 178ha（220 メッシュ）と評価した。</li> <li>・ 分布拡大の状況は不明であるが、捕獲トラップや捕獲柵による検出では、拡散が頻繁に生じている状況ではないと推測された。</li> </ul>
昆虫群集への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在のところ、捕食による昆虫群集への顕著な影響は見られない。</li> </ul>
防除対策が兄島生態系へ及ぼす影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 粘着トラップによるトカゲ類等の混獲が多数確認されたが、影響はまだ評価できていない。</li> <li>・ 柵の設置のため、伐開が行われた。生態系への影響は不明であるが、植生及び陸産貝類への影響を回避する配慮がなされ、多くの伐採木から萌芽が確認された。</li> </ul>

#### 防除の次年度の方向性

平成 25 年度の取組の評価を踏まえ、防除の次年度の方向性を整理した。

検討項目	概要
シナリオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「分布域、高密度生息域ともに、確認地点が変わらない」「分布域、高密度生息域の確認地点が広がる」「Bライン以北に飛び地的にアノールが確認される」場合の、防除のシナリオ 3 パターンを整理した。</li> </ul>
捕獲及びセンサスの作業要領	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度当初から捕獲作業を行うメッシュを整理した（57 メッシュ）</li> <li>・ センサスの作業は、「高密度分布域」「分布域の外縁部」の検出を優先する。</li> </ul>
捕獲作業の数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 捕獲作業による密度低減の数値目標として、1 年後の CPUE を 0.1 トラップ・日以下にするとした。</li> </ul>
遮断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分布域変化のシナリオに合わせて、各ライン及び囲い込みにおける対策内容を整理した。</li> </ul>
新規捕獲技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規防除技術開発の体制を整える。</li> </ul>
防除対策の効果と影響評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防除対策の効果として、捕獲作業による個体群の変化、分布域の推定及び拡散傾向、昆虫の生息状況の評価する。</li> <li>・ 防除対策による生態系への影響として、捕獲作業による混獲影響、伐採が植生に及ぼす影響を評価する。</li> </ul>